

# さけ・ます増殖事業振興調査(親魚回遊経路調査) (抄録)

後藤悦郎・田中伸和・山本孝二

本県に回帰する親魚は現在の所全て天然固有系群であるが、その年齢組成、大きさなどの調査を行った。また、併せて回帰親魚からの採卵飼育、北海道卵の移入飼育、河川の実地調査、稚魚追跡調査も実施した。なお、詳細は別に報告書(島水試資料No.28)があるので参照されたい。

## 方 法 概 要

### 1. 親魚回遊経路調査

当県の河川に回帰する親魚は神戸川、江川、高津川の3河川に集中しているが、そのうち神戸川(投網)と高津川(刺網)について調査を行った。また、沿岸の定置網に入網した親魚についても調査を行った。調査項目は捕獲尾数、場所、来遊期、年齢、大きさ、雌雄である。

### 2. 稚魚追跡調査

高津川について天然(固有)親魚から人工採卵したもの、天然(固有)親魚の河川内産卵したものの、北海道産移入卵のもの各々の稚魚の成長、河川内における生態を調査した。

## 結 果 概 要

1. 採捕した親魚は沿岸44尾、神戸川31尾、高津川57尾の合計132尾を数えた。
2. 回帰親魚の年齢組成は3年魚、4年魚がほとんどで各々半分づつであった。その他5年魚が一部あった。
3. 回帰の盛期は沿岸で10月中旬から下旬、神戸川と高津川では11月上旬頃であり沿岸より1旬遅れるようである。
4. 雌雄比は沿岸で雄の方が70%と多かったが、河川と総合すると雌雄ほぼ同数であると思われる。
5. 高津川の天然親魚の河川内で産卵したものからふ化した稚魚は2月13日に初めて採捕出来た。その後4月上旬までに大方降海を完了したと思われる。天然親魚から人工採卵したものは池内でこれとほぼ同様の成長を示したが、北海道産のものは積算水温で400℃以上の差があり、今後早期卵の入手と昇温により対応することが必要であると思われる。